

JF日本語教育スタンダード タスクと評価基準の例 話すこと(表現) B1

言語活動(産出)	△	○	◎
タスクの達成度	研修中にどんなことがしたいか、計画や準備についての短い事項を列挙し、簡単な字句や文を並べて話すことができる。	研修中にどんなことがしたいか、計画や準備だけでなく、夢や希望など自分の考えについても、ある程度の長さで順序だてて述べることができる。	研修中したいことに関連した話題を広く展開でき、適切に要点を強調しつつ、要領よくまとめて明瞭に述べることができる。

(タスク達成度の記述の参考)

経験や物語を語る (A2.2)
レベル別特徴・産出 (A2)

経験や物語を語る (B1)、話すこと全般 (B1)
レベル別特徴・産出 (B1)

経験や物語を語る (B2)
話すこと全般 (B2.1)
レベル別特徴・産出 (B2)

話し言葉の質的側面	未満	A2+	B1	B1+	B2	超
使用領域の幅		たいいていの場合、言いたいことを内容的に妥協・制限したり、言葉を探したりする必要があるが、馴染みのある状況や話題に関して、十分な語彙を持っている。	流暢ではないが、言い換えを使いながら表現するだけの語彙を十分に有している。	予想外の状況を描写できるだけの十分な言語の幅を持っており、ある程度の正確さで考えや問題の主要点を説明することができ、抽象的な内容に関しても考えを述べることができる。	十分に言葉を使いこなすことができ、ある程度複雑な文を用いて、言葉をわざわざ探さなくても自分の観点を示し、はっきりとした説明をすることができる。	
正確さ		(A2+がないため、A2) まだ基本的な間違いが決まったところで出てくるが、いくつかの単純な構造を正しく用いることができる。	予測可能な状況で、関連した非常によく用いられる「決まり文句」や文型をかなり正確に使える。	多くの場合高いレベルでの駆使能力があるが、母語の影響が明らかである。	比較的高い文法能力を示す。誤解を起こすような誤りは少ない。たいいていの間違いは自分で訂正できる。	
流暢さ		言葉に詰まったり話し始めて言い直すことが目立って多いが、あまり困難なく、練習した、覚えている言い回しを使って特定の状況に合わせることができる。	長い一続きの自由な発言をするとき特に、文法を考えたり語彙を探したりする際の言いどみや言い直しが多く、修正が目立つが、わかりやすく話を進めることができる。	自分の表現したいことを、比較的容易に表現できる。言語化する際に、間があいたり、「袋小路」に入り込んだりはするものの、他人の助けを借りずに発言を続けることができる。	文例や表現を探すのに詰まったりするが、気になるような長い休止はほとんどなく、ほぼ同じテンポである程度の長さで表現ができる。	
一貫性		最も頻繁に出現する接続表現を使って、単純な文をつなげ、物事を語ったり、描写することができる。	一連の短い、不連続な単純な要素を連結し、並べていて、話ができる。		使うことができる結束手段は限定されており、長く話すとときこちなさがあるが、発言を明瞭で一貫性のある談話につなげることができる。	